

演題 [CAD/CAM システムと今後の歯科技工とのかかわり]

講演抄録

近年、歯科補綴臨床において、鋳造による補綴物が CAD/CAM システムの出現によって、今まで扱えなかった材料を加工できるようになり、補綴物の多様化が急速に進んでいます。さらに海外ではさまざまな材料を用いた 3D プリンターやレーザーミリングなどの最新の技術が臨床応用され始めています。現在、ドイツを中心にヨーロッパでは補綴物の 60%以上が CAD/CAM で製作されているというデータもあり、世界的に急速な勢いで CAD/CAM 化が図られています。

日本においても近年 CAD/CAM システムで製作したハイブリット冠が保険適用となり、CAD/CAM 化が加速する兆しが見えています。しかしながら現在では全て CAD/CAM で製作できるわけではなく、歯科技工士のかかわりが不可欠となります。そこで今回は最新の CAD/CAM の現状を紹介するとともに、今後 CAD/CAM 時代に歯科技工士にどのようなことが求められるかを述べさせていただきたいと考えております。